明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第貳卷

第五號

明治三十七年五月二日發行

婦人の威嚴（安部磯雄）……一
優しの文（前半）……八
自然奥秘の第一頁（久田二葉）……九
△獨りで生えた庭の嫩葉△助勢來る△突然現はれた一隊の蟻車△蟻地獄の出現△自然界の現象△讀み得たり自然の奥秘
優しの文（後半）……一四
呼吸運動……一五
平民文學……一六
人體と社會……一七
母と子供……二〇
家庭通信……二一
（一）和洋折衷料理（二）我が家庭と友の批評（三）貧世帶と主婦の覺悟（四）朝の課業
二葉園藝……二五
△春まく草花△美しい果物と見事なお蔬菜△我々の胸庭のさゝやき△蚜蟲の退治方△土龍防ぎ△唯君へ
此頃の朝……二七
寄贈雜誌新聞……三〇
文庫を飾るべき新出版物……三一
編輯便り……三二

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

木下尚江著

小説

火の柱

來十日發行　定價三十錢

社會主義の思想と基督教の信仰とを結合して、素朴なる偉男兒と清高なる女丈夫とを主人公と爲し、現社會の腐敗せる半面と鬱勃たる革命の機運とを對照せしめたる處確に明治文壇の珍品とするに足らん

發行所　麹町區有樂町三丁目一番地　平民社

取次所　麹町區中六番町十番地　由分社

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料——特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は毎月一回(一日)發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵劵代用の節は五厘切手にて一割增の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局は芝口局宛受取人は由分社宛の事。

明治三十七年四月廿九日印刷
明治三十七年五月 二 日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎

印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京麹町區中六番町十番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌 第二卷 第五號

婦人の威嚴

安部磯雄

私が平生西洋の小說——最近で申さば萬朝報に毎朝載つて來るあの『一夜の情』と云ふ小說、若しくば此以前、一寸とした短篇になつて出て居た『人情美』などを讀んで、度々同じ感想に打たれる事がある。其感想とは何であるかと云ふに、どうも其等の篇中に顯はれる處の婦人の性格が、日本婦人の性格と比較して、其所に著しい相違を認める一事である。

現今連載中に係る『一夜の情』の女主人公たるベルサと呼ぶは、金持の家に產れ、慈愛深き母の手に養はれた、云はゞおぼこ娘の類で、格段に高等な敎育を授けられたと云ふ經歷を持つて居らなんだ。それにも係らず、私は彼女の性格に於て一種の犯し難い威嚴のある事を感得した。假りに既出の分を簡單に話さうならば、其ベルサと云ふ婦人が先づ或る男子と結婚の約束をした。無論彼女は其男子に深き愛情を捧げて居たに違ひない。處が此二人が相携へて新婚旅行を企てた其夜、ベルサは其良人たるべき男が殺人罪を犯した事を目擊し、終には裁判沙汰となり、自分は最も有力な證據人として嚴しき法廷に立事となつた。彼女はその法庭に立つた時、果して如何なる態度を以て判官の審問に答へたであらうか。彼女は儼然として一語かう答へた『あの夜は朝迄妾と一所に同室して居りました。』

焉ぞ知らむ、事實は全く轉倒して居て、其夜は兩人まだ別々の部屋で寢たのである。併し只一の證據人の口からこの反證が擧つたので、良人たるべき男は終に無罪となり、再び彼女と淸き結婚式を行うべき幸福を得た。其男は欣喜雀躍、飛んでベルサの許に行きて其恩を謝し、さて改めて結婚云々の事に及ぶと、これは意外、彼女は何としても動かない。『もう妾は貴君に用

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事はありません。」と云つて、斷然その申込を拒絶した。彼女の苦衷や察すべし。假令人情として永久に處女の神聖を汚すとも（裁判所で申立てた同室一件の事で、）現在罪人と知りつゝ結婚する事は良心の許さぬ所であつたからである。私は此所に動かし難き一つの威嚴を見る。眞に尊き女性の性格を見る。

又かの『人情美』と云ふ短篇、あれは先頭理想團で催した小會の砌、私が『家庭』と云ふ題目に就いて話した事がその土臺となり、終に黒岩氏の筆に上つたもの。其話と云ふのは、米の作家アーピングと其許嫁に關した事で、始めアーピングがある娘と互に熱き愛情を捧げ合ひ、終に許嫁の約をさへ結んだ。處が其娘の素性は芝居の舞臺で唄を歌ふ、オペラ、シンガーであつたが、一旦アーピンクと婚約後、さる止むなき事情に迫られて、例の舞臺へ顯はれた事がある。さあアーピングは怒つた。面目に係ると云ふので、非常に怒られたので、娘は到底居るに堪へず、一通の遺書を殘して、遠く歐羅巴の方へ出て行つて了つた。無論親をも

（二）

兄弟をも見捨てからに。然るに、其後アーピングが伊太利に行つて不慮の熱病に犯され、將に九死一生と云ふ所へ、忽然かの娘が顯はれて來て熱心に看護をした。それが爲にアーピングは危い命をば拾つた譯であつたが、間もなく肝腎の看護人たる娘が同じ熱病に罹り、到頭其儘死んで了つた。アーピンクたるものこれを聞いては眞逆に平然たるを得ない。終に其温き心情に感じ、七十幾歳の高年に至る迄、獨身生活を持して節を立てたのである。私は此短篇の中にも矢張一種の強き心を持てる健氣なる婦人を見る。アーピンクに叱られて、歐羅巴迄も飛び出すと云ふ意地の如きは、特り西洋の婦人に於てのみ見らるゝ尊き性格であらう。尙ほ西洋の婦人に就て研究して見たいと思ふ人があるならば、私は英國の女作家ヂョージ、エッオット等の作物を推薦する。一つの作として女性の高き品性を發揮して居ないのはない。此等の小説中の女性を見るに、柔らかな愛が溢るゝやうにあるけれども、其奥には常に犯すべからざる一種のディグニテイ（威嚴）が控えて

居る。

飜つて我國の婦人の地位運命を考へると、誠に氣の毒の至りである。社會制度の悪い結果、往々秀抜な強い女が顯はれて來ても、直に世の中の毒氣に觸れて、埋沒の運命に陷るのが普通である。爲に、あらゆる婦人は悉く薄弱に卑劣に傾き、思はず敬意を表せしめるやうな——即ち尊嚴の氣象を備へたものは一人もない。元來婦人には一個の強烈な意地あり、如何なる男子の言語に對するも、はた迫害に遭遇するとも、凜然自己の是と信ずる道に從つて、其素志を變せぬと云ふのが本當であらう。これ啻に婦人其自身にとつてのみの幸福ではなく、この品性の有無に依つては、男子一生涯の幸福の上に大なる影響を及ぼすものである。假令へば細君でも同じこと、只何事に依らず良人の云ふが儘に一任して、唯々諾々人形の如き婦人であつたならばどうであらう。其良人と呼ばるゝ人は眞に不幸な男と云はねばならぬ。

私は良人たる男が其細君の面前に於て、聊かたりとも陋劣な言語を吐き、賤しい態度をする事が出來ぬと云ふやうな婦人が欲しい。そうして今後の社會は大にこの種の婦人を要求するであらう。だが、世人は云ふかも知れぬ。其樣な婦人を作るには、十分に教育を施さねばならぬと。一應最な說ではあるが、併し其所謂教育丈では奏効の事頗る六ケしい。早い話が前述のベルサにしても、左程に立派な教育を受けた女ではなかつた。なかつたに拘らず、彼樣な偉大な心を持つて居た。一體教育々々と呼聲は高いけれど、西洋の女とても、一から十迄教育の備つたものと計り定つた事はない。私が亞米利加に三年滯在して居たが、其間に觀察した下宿の下婢でも、何處にか威嚴が附いて居て、日本流の下婢とは全く其趣を異にして居る事を認めた。三年の間、私は客が下婢に對して輕蔑の語を發した事を知らなんだ。又日本の樣に奴隷扱ひにする一人の紳士をも見た事がなかつたのである。これから考へて來ても、婦人の位置の卑いのは、決して教育のあるない斗りに關係するものではなくして、實に輕視の出

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來ぬ一大事が其所に蟠つて、主なる原因とはなつて居る。それは何であらう。所謂社會の惡制度である。古き邪なる慣習の上に築かれた制度が産む所の惡き結果である。

先づ第一――日本の婦人には先天的痼疾の如き一つの思想があつて、女と云ふ者は必ず結婚すべきものと云ふ考へを抱いて居る。尤も抱くと云つても、それは女自身が勝手に考出したのではない、社會がかう云ふ風の考へを持つやうに婦人を作つて了つたのである。何時ぞや村井氏がこの思想を名けて、一種の迷信であると云はれた如く、慥にこれは正しき思想と稱する事を得ぬ。女子が妙齡になれば、必ず結婚せねばならぬ、と云ふのは何を根據にしたからの事であらう？丸で意味のない話である。私は今日の婦人に對して云ふ。卿等幸に機會あれば結婚せよ。若し機會なければ、何時迄なりとも獨身なれよ、と。これ實に至當の方法である。さうして社會も此調子を以て婦人に對して行かねばならぬ。我國舊來の結婚制度は、これをある意味から云へば、殆んど壓制的、又習慣的に行はれて居て、大抵の女子は其下に屈從して居る。私は思ふに、若しかゝる壓迫の間にあつて、而も只一人ある意味の爲に結婚をせずと云ふ婦人あれば、社會は大に其人に尊敬の念を拂はなければならぬ。

雜誌『新人』の主筆海老名氏が一日一人の信者から、かう云ふ事を訊ねられた。『キリストは立派な人である。それに何故結婚をなさらなかつたか。』と。成程問者の云ひ分は至極尤もで、あれ迄に愛の福音を民衆に傳へ、親と子との關係にさへ種々の教訓を下された耶蘇を考へて見れば、細君が如何にもありげに思はれる。海老名氏はこの問ひに答へて曰く『キリストの意に滿つるやうな女性が一人もなかつたから。』

尤も私はさうは思はぬ。隨分其時分にも情のある愛の深い女も居たに違ひない。只それにも拘らず、キリストが結婚をしなかつたと云ふのは、慥に時の非なるを見て居たからの事であらう。それは兎も角、この海老名氏の答は眞に面白い。『意に滿つるやうな女が居な

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かつた。』とは、玩味すべき言葉である。若し今の時代に於て、かゝる見識を持て結婚をせぬ女子があるならば、其人は餘程偉い人であらう。社會は決して其人を侮蔑するのではない。寧ろ社會の寶として且つ敬し且つ尊ぶの覺悟を持たねばならぬ。

一體女の方から強て結婚を要求するのは危險の事業である。其機會が來ればこそ結婚もすれ、此方から何も態々焦心つて機會を作出す必要が何處にあらう。私は私の周圍に澤山惡い話を持つて居る。其澤山な話の中で、まづ最初に『犧牲的結婚』と云ふ面白い題目がある。こゝに一婦人あり、彼女は可也高等の教育を受け、同輩の間からも尊敬せらるゝ程の人であつたが、一日俄に或家へ後妻に行くと云ふ意外な決心をしたのである。私の友人は寢耳に水なので、早速彼女の家に駆付けて大にその事に反對した。話を聞いて見ると、先方は大分資産のある家で、死んだ妻の子が五六人、それが大抵白痴に近い者斗りだとの事。友人は益不思議でならぬ。『其様な家へ何しに行くのです。』と問返したが、其時彼女の返答はかうであつた。『實に先方が氣の毒でなりません。妾は犧牲的に參るので御座います。』と。果して結婚に犧牲的と云ふのがある事であらうか。男女の愛は自由で相對的でなければならぬ。處が其後、其婦人の噂を耳にして驚いた。彼女が例の資産家へ後妻に行くと間もなく、憐むべき白痴の子供をば悉く里子になり養女になりやつて、追拂つて了つたと云ふ話。これ資産と云ふ物に魅せられて、神聖なる愛を賣つた例である。又私の知己の中に一人の女教師があつた。私は疾くからこの人の性格に、ある缺點のある事を認めて居たが、或時良縁ありと云ふので終に結婚した。然るに、其良人は三日斗り經つと花嫁の缺點を發見したものか、恰も弊履を棄てるが如くに彼女を追出したのである。仕方なく戻つて來た女教師は、不信實無慈悲な男に逢つて、もうこり〳〵したかと思ふとさうではない。彼女は頻りに再婚の事を急立てる。餘り腑に落ちぬから其理由を問糺して見ると、

『妾は餘り口惜しいから、面當に結婚して、復讐して

やるのです。』と云ふ。何と云ふ心得違ひだらう。世の中に『復讐的結婚』と申すのがある事であらうか。

　更に私はまだ〳〵悲惨な話を知つて居る。話の中の本人は女子大學の生徒で、それがある男と婚約をした。其後男は五年間洋行するし、女は此方に居て樂しき未來を寤寐の間にも忘れず、洋行した人の妻となるのであると云ふ名譽で、他生徒からも大に羨しく思はれて居たのである。處が愈〳〵其男が歸朝して、いざと云ふ塲合になると、彼はなか〳〵約束を履行しやうとせぬ。可成的彼女と遠かる手段をのみ講じ、運よくば其儘で誤魔化し去らうと云ふ量見。それと云ふのが、その娘の家に資産がないからである。男は米に渡ると同時に當世風となり、尊き愛に換ふるに賤しい利慾を以てした俗悪の人とはなつた。かくの如く根性の腐敗した洋行歸りの彼は固より同情も何もあつたものでない。許嫁の娘を遠けつゝあるの傍、一方には機敏に手を廻して、ある資産家の令嬢を持參金附で迎へやうと努力して居た。如何にも圖太い、良心の明を失した男、尤もこれには娘の側から故障が這入つて、一時見合せと云ふ處迄は漕付けたが、さて何時迄も埒のあかぬのは娘の身の上である。彼女はもう精神の底から世の中の男子の不信實なるに慨嘆して、終世獨身で居ると云ふ程の決心をしたかと思ひの外、彼女が友人に對して告げる處は實に左の如くである。

『五年も待つて結婚の出來ぬと云ふのは社會に對して面目がありません。假令妾は三日目に放出されてもかまはぬ。どうあつても一度先方へ無理にでも嫁つて來ねば承知が出來ないのです。』

　これを稱して『強迫的結婚』とでも云ふのであらうか。結婚制度の悪き結果、終に世の女子をして、斯く迄に意久地なく墮落せしめた。それ丈の教育――女子大學の課程を踏んで來た女であつて、此樣な明瞭な問題を何故解決する事が出來ぬのであらう。この話の悶着は現今引續いて居て、洋行歸りの男の方からの回答が、來る七月に來ると云ふ噂、露西亞の外交と一つで、私はどうも其邊が危ぶまれてならない。これを要する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、女子は必ず結婚せねばならぬと云ふ思想は恐なる迷信である。

第二——現今の女子の地位を高める上に於て、最も肝要なるは各自に獨立自營の基礎を作る事である。即ち親にも兄弟にも倚らずに生活の出來るやう、其腕を磨いて置かねばならぬ。私は娘が結婚する場合があつても、決して仕度はせぬ積り、そうして其仕度に要する金高を悉く娘の教育費に入れる。千の二千のと云ふ大枚の仕度をしても、先方の良人が勝手氣儘な惡い男であるならば、直きにそんな仕度は質に入れられて了ふであらう。併し娘の身に附いた教育丈は如何とも仕樣がない。いくら良人が專制君主でも、細君の才能を賣飛ばす事は出來ぬに違ひない。此頃世間の父兄などは、娘や妹を高等女學校へでも入れると、餘程鼻を高くして居るらしいが、私の考へでは、寧ろ看護婦とか産婆とか、歴とした一個の職業を學ばせて置いた方が氣の利いたものであらうと思ふ。

第三は頗る大切な事で、社會が、今數步高き所に眼光を置き、女子の築いた新地位を一般に是認しなければならぬ。夫は妻を離縁し得る、併し妻に於てはそれが出來ぬ。——此樣な馬鹿な法律が何處にあらう。私は此樣な不安心な社會に、一日も婦人を住ませて置きたくない。夫婦孰れか一方が姦淫罪を犯したならば、何方からでも離婚の請求が出來ると云ふのが至當ではないか。然り勿論至當である。さうして、社會が悉く古い習慣的思想から離れ、相一致して此等の理由を正當に解釋したならば、忽ち女子の權利はそれと同時に伸張するのである。今の世には隨分教育のある女がありながら、矢張夫婦の關係は昔時の儘で、妻は常に其夫に服從して居る。それと云ふのも、實は社會が妻の離婚に同情せぬから起ること。假令女の側に如何程根據のある理由があるとも、離婚とさへ云へば、必ず妻が惡いと頭から評言し、常に侮蔑と嘲笑とを以て女子に對する。さうして夫の側に如何なる無理があつても聊かこれに問ふ處なし。何たる不公平であらう。

我々が若し離婚を企てるやうな健氣な婦人を見たな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らば、宜しく先づそれに充分の同情を表し、且つ相當の尊敬を捧げねばならぬ。否啻に我々ばかりではない。一般の社會が宜しく此覺悟を持し、舊習慣の奴隷とならず、大に新しき輿論を作る必要を見る。思へばかの亞米利加が憐れなる奴隷を解放したやうに、理想の子たる我々は飽く迄も今日の婦人に同情を寄せ、假令それが爲に家庭の平和を傷けても、可い。眞に威嚴ある婦人を作らねばならぬ。婦人の地位を進めねばならぬ。婦人に威嚴のある事は、一方に男子の品性を高くする事で、從つて清高なる社會を作ると云ふ事に歸着する。

以上の言或は少し激に失した點があるかも知れぬ。けれどもそれは止むを得ぬ。吾々は劍折れ矢盡くる迄、現社會の惡制度と奮鬪し、女子の世界に新しき光明を導き入れねばならぬのである。

右の一篇は安部氏がものされたる論説たり。論壇に於ける氏の名聲は既に全國に喧傳す。其言吐の明々として、而も一種の壓力を有するところ、其態度の謹嚴及論旨の透徹、眞に當代稀に見るの雄辯家たるに負かず。若しそれ其説の内容に至りては常に熱情迸り、清新の理想全幅に溢れし。今回偶々本誌を以て此誌の卷頭を飾るの機會を得たるは、記者の太だ幸榮とする所なり。

優さしのふみ（前出）　安藤火州譯

お前の一言で貞ちやん、また僕の心はすつかり變つた。眞正に僕はお前の自由になるのだよ。たとへば明日にも僕が死んだとしなさい、そこにお前がなつかしい其聲で僕を喚びながら、優しい其唇で接吻でもして呉れようものなら、僕は屹度其場で息吹返へすに違ひない。僕の心もちは昨夜と今夜とまア何と云ふ相違だらう。昨日はね貞ちやん、未來の希望と云ふものが僕にはすつかりなくなつて、もうお前は僕を可愛がつて呉れないのだと思つた。で昨夜などはねえ、寧い事死んで仕舞はうかとまで思詰めたのだ。それでこんな獨り言などいつてたのさ。

「眞實に貞ちやんが僕を愛して呉れないのなら、僕は此世にもう樂みがなくなつたのだ。死んでもいゝぢやないか。それとも矢張り生存たものだらうか。いや〳〵僕の一生は貞ちやんに上げたものなのだ。貞ちやんが愛して呉れるとも呉れぬともそれは貞ちやんの勝手だ。どうしてそれを是非愛してお呉れと云ふ權利があらう。僕は天使でもなければ又神様でもないのだもの。しかし僕は全く貞ちやんが可愛いのだ。僕は―僕の様なものではあるけれど――貞ちやんの爲なら何んでも犠牲にする。所望とならば、僕がそれ程にこがれて居る戀をでも捨てて見せる。貞ちやんがちよいとでもいゝから僕を見返つて呉れるか、又はニツコリ笑つて見せてお呉れだつたら、僕はもう何も惜しいものはない。

自然奥秘の第一頁

＝梅樹の敵と味方＝

久田二葉

皆さん、我が自然界で殆んど、前代未聞と思はれるくらい面白ゐ々々現象が認められました。それはどんなことでしやうか、これから話します。

獨で生えた庭の嫩梅

去年の春が逝き、暑い夏が來やうとして居た時分、騒々しい市街生活を離れて、暫く故郷の山水に親しみ醇朴な田園の生活に脳や胸中の埃を除いて居ました。

朝夕の課業は家の周圍をそゞろあるくのと、時には駄馬に載つて落る位のことで、頗る單純なものであッた。尤も讀書の爲めに二日も一室を出ぬこともあッたし、農業の手傳ひして失敗ッたことも無いではないが是れ等はホンの附たりものなので……。

朝夕の散歩、これは私が最も自慢とするもので。然り、烟草も酒も遊藝も我が物とする事の出來ぬ私は、散歩の趣味丈けは決して人に負けぬつもりである。さらば私は、朝夕の散歩に何を得たらうか。

私の庭の隅＝往來の上の土手の裡にある一本の梅樹、それは風が種子を持つて來たのが生えたのか、小童の實を食ッて捨てた種子から生えたのか、兎に角、幼弱なもので、花が咲く迄にはヨホド時日を要すると云ふ、若い小いものがあッた。が、地面が肥えて居るので、誰れも培養ねど勢よく生長て居た。私は庭を散歩する毎に、未來長き彼れを見舞ッて、何等かの意味あるもの丶やうに思ひ支柱も立てたり土も掛けたりしてやッた。果せる哉、それは或ることを私に敎えて自然の奥秘の一頁を讀ませて呉れました。

梅樹の大敵

ある朝、冷水拭をやッた後の、淸々した頭と身體を例の梅樹の邊まで運んだ。で、ついでにと思ッて梅樹を見舞ッた。驚くべし、昨日迄元氣のよい梅樹の嫩芽が

しをれかけて居た。と見ると、どこから來たものか、數十の蚜虫がついて居た。これぞ梅樹の新たなる大敵なので、一層注意し、此の一本の小樹を中心として如何なる現象が生まれるかを觀るに勉めやうと決した。

皆さんも御存じでしやうが、蚜虫と云ふ奴は、毛のやうな細い舌を植物の嫩芽や嫩葉の皮の中へ穿き入れて、養液を吸ふて枯らしたり困らせたりする、中々の惡い奴でありまして、此奴が私の見舞ふ梅樹に發生ましたから、早速退治するのが、自然物を庇ふものゝ義務であるが、實際の所、私は此の梅樹の保護より、これを中心として、自然がどんな活劇を開くかを觀るにあるので、いッそ、此の儘ほッて置くのが却ッてよいと觀念し、今迄と同じに朝夕見舞ひはするものゝ、少しもかまはなかッたのです。ところが蚜虫は殖えるとも〳〵、其勢ひは中々すさまじひもの、二三日の間に、勢ひのよかッた嫩芽も灰黑色になる迄、蚜蟲に包まれてしまいました。(蚜蟲を俗にフリマキと云ひます)

なせ蚜蟲の蕃殖ばかりコンナに早からうか、これは今、特に研究せねばならぬことである。で、私は注意してその工合を觀察して、其の特別な蕃殖を營むに驚いた。それは他でもない、アンナ小さな蚜蟲が、卵子を産まずして、始めから自分と同じい成蟲を產むことである、ちやうど猫が子を産むやうに。そうしてそれが早い、見て居る間に二匹三匹產む、甚しきは、子供を尻から半分ばかり出しつゝ、さッさとあるく。その又、新たに生れた兒供は二三日經つと又、親と同じく孫を產むと云ふ風で、こればかりみても中々面白い。が、梅樹は肥料を土中から吸ひ取て生長らうとする。蚜蟲は子孫を殖やして迄、樹梅を食はふとする。其の間の戰爭は、中々烈しいもので、傍觀者たる私は、唯だ自然の神が、如何に采配を振るかに注目するのみの姿となッた。

助勢者來る (蚜蟲の發生)

突然出て來た用事に、二三日家を明けた、從ッて梅樹訪問は出來なかッた。其の中に用事も濟んだので、

所謂取るものも取り敢えないで、例の如く動物と植物との戰爭を傍觀に出かけた。助勢來!! 待ちに待ッた、梅樹の味方は出て來た、それは七星瓢蟲の四五匹が盛んに蚜蟲を喰殺して居る現象であッた。

瓢蟲と云へば皆さんが、御存じかも知りませんが、ちやうど大豆を半分にしたやうな龜の甲然たる、しかも光澤のある茶褐色の背に、七つの黑星のあるのが、七星てんとうむしで、小さい身體のもの大きいものなどいろ／＼の種類を持つて居る蟲であります。此の蟲は其の性質として敵たる蚜蟲を喰ひ殺す、梅樹の味方即ち植物に於ける、兵隊が家畜かのやうな資格に當るのです、ですから蚜蟲が嫩葉を食ふやうに、瓢蟲は蚜蟲を喰ふ、喰ふけれども蚜蟲の繁殖は、先きに申しましたやうに早く盛んなので、なか／＼退治は出來ぬ僅かな數の味方は遂に敵の繁殖丈け防ぐに止まる有樣ではあるが、御互に數の少い此の植物と動物との共同は、今や、敵の蚜蟲が極く嫌ふ降雨を待つて、大に爲すあらんと構へる迄、這の小舞臺に於ける競爭は歩を進めて來た。か丶る時!

突然現はれた一隊の蟻軍

があります、彼れは何を爲すべく此の小舞臺へ來たのであらうか。初めの間は、其の何の爲めなるかを識れなかッた、けれど注意して觀た結果、此の蟻軍と蚜蟲との間にも共同の出來て居るのを認めた。

諸君がもし庭へ出で蚜蟲を見られたなら其の體の構造を注視せられよ、先づ彼れの尾端に短い毛のやうなもの丶あるを認められるであらう。それは即ち、蟻が蚜蟲の味方をする動機になるの機關です。蟻軍は其の頭にある二本の鬚みたやう毛(觸鬚)を以て、此の蚜蟲の尾端の毛狀物に觸ると、小粒の露の玉を出す。此の露の玉が甘いので、蟻先生は恰も我々が牛乳を飲むやうに嗜むのである。であるから蟻は、我々が家畜を飼ふやうに蚜蟲を飼はんとする爲め、嫩葉がなくなれば他の嫩葉へ連れて行くと、恰も我々が牛に食を與へ又柔き草のある牧場へ連れて行くと同樣である。蚜蟲

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も自分が庇ふてもらうことだから蟻のするのに從ふて居るばかりでなく、蟻の需めに依ッて、盛んに尾端の毛から甘汁を出してやるのである。

さて、瓢蟲如何に強くとも蟻軍を如何ともすることが出來ぬ、唯だ自分の喰へる丈けの蚜蟲を喰ふ迄はなか〳〵以て、新たに出來た蟻と蚜蟲との同盟隊をば全滅する譯けには行かぬので、傍觀者たる私さへ、どうかして、此の小舞臺に於ける生物の力の不平均を調和したいと思ッた。と同時に殖えべき蟻の割合少いのを不思議に思ッて、傍らを注視した。果然!

蟻地獄の出現

を觀た。蟻地獄とは何んのことであるか。

私の庭の、梅樹の生えて居る處は、パラ〳〵の砂地で、上を大きな杉の木が蔽ふて居るから、少ぐらいの雨では容易に梅樹が濕りを得られぬので、こうゆう處を好むウスバカゲラフ蟲(アリヂゴクのこと)は、盛んに繁殖を初め出し、その邊ところ〳〵に摺鉢形の穴を

地上に行列させました。

不思議なのは此の摺鉢形の穴、其の正しい奇麗に出來て居ることは、とても我々不器用の者の及ぶべき所でない、全く神の仕業でゞもあるかのやうに見られるので、一見奇異の感がする上に、其の穴の底に砂を被つた小さな蟲の居るのを見ては、此の奇麗な摺鉢穴の傍に居て、其の何を働きつゝあるかを觀察せんと思ふは敢て私ばかりでもあるまいと思ふ。

皆さん、私は半日ばかりそこに、うづくまつて其の蟲と摺鉢穴との關係を觀ましたら、奇なる哉。梅樹との關係の糸はこゝ迄繋がつて居つた。其時、梅樹の蚜蟲を負背して來た一匹の蟻は徐々に摺鉢穴の邊へやッて來た、と思つたら穴の岸を傳ひかゝつた。南無慘!砂はくづれて蟻先生は落ッこちた。果然!今迄砂を被つてヂッとして居た穴底の蟲は、此の時兩眼を光からして頭を上げた、蟻はもがき始めた、けれど駄目だ。さアどうなるのかと思ふ間もなく砂被先生は、やにはに蟻を抑へた、喰ひ初めた、蟻に背負された蚜蟲先生も

勿論追付け喰はれるのであらう。アアやう〳〵分ッた、これは蟻地獄の名に背かず、蟻を陷し入れて餌にする蟲、ウスバカケロフであると。されば此のアリヂコクは又梅樹の味方となッて、是れから大に働くであらう。

自然界の現象

皆さん、唯だ呆然、吾が自然界を見たなら何の意味も無いやうですが、私はこゝ迄、梅の木を中心としての舞臺を觀察して、大なる自然の敎訓と、生物の世の中の複雜であるのに舌を卷きました。

既に一樹の梅が自然界の一隅へ芽を出す、雨あり、風あり、雪あり、葉を喰ふ蚜蟲あり、蚜蟲を飼ふて一層害を及ぼす蟻あり、しかも自分の味方として生存上働くは瓢蟲とアリヂゴクあるのみではありませんか。其の上、然り其の上アリヂゴクを喰ふ家鷄あり、家鷄を捕へんと狙ふ犬あり狐あり、狐犬を狙ふ獵師あるに思ひ及んでは、どうして自然界の現象の複雜にして有趣味なるに舌を卷かずに居られましやう。皆さん！此の一瞬に私は

讀み得たる自然の奥秘!!

と叫んだのであります。即ち自然界の生物は、今迄私が語ッた梅樹を中心として演せられた現象のやうに皆な自分が生活し蕃殖する爲めに、味方となッて共同し、敵となつて闘ひ、そうして其の間に幾多の悲劇を演じ、犧牲者を出す代りに幾分づゝは漸々進歩するらしい。學者は此の狀態を、生存競爭と適者生存との二事實として居るのである、そうして我々人類も生物である以上、やはり生存競爭場裏の者であると斷定して居る。されど之は人類を一の生物即ち同格者として下した斷案で、吾人が一般生物以上最も進歩した生物であり、且つ「萬物の靈長」と迄自稱するからには何か特點がなければ、直立する猿に異ならぬのである、而して右の學者が一般生物と做なした斷案に伏して、同類相食み相敵はねばならぬのである。尤も今の人類は表面上、國家とか社會とかを形成して居るが、それは

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

敢て我々の專有でない。蟻の世界にも蜜蜂の世界にも國家があり社會があつて彼れ等も「王」の下に、相喰み相鬪ふて生活の爲めにのみ汲々として所謂生存競爭をなし居ること我々の今の國家とか社會とか云ふものに異ならぬのである。斯く觀察し來ると我々人類も實に憐れな一動物である。

が、近世の我が思想界に一つの光明が現はれた、それは何んであらうか、即ち生物學及進化論上で下された競爭は如何にしても免れねど、既に人と生れた以上は、生活上の競爭、衣食の爲めの競爭は止めて、精神上の競爭に全力を注ぎ、我々は衣食以外、別に人らしい競爭をして、各自特有の精神的長所を益々發揮すべきであると云ふ眞理の上に、立てられた一理想の生れたことである。

皆さん、私は此の天來の福音に接したのと、梅樹を中心としての生物競爭上の活書を觀たのを以て、自ら、自然奥秘の第一頁を讀み得たと斷じます。

（完）

優しの文（後半）

貞ちやんは實に僕が一生涯の御本尊だらうぢやないか。それが萬一僕を振棄てたり嫉つたりする樣な素振りでもあつたものなら僕の不幸はどんなだらう。僕はそうなると其場で死んで仕舞ふ計りだ」。ほんとに貞ちやん、昨日の今頃はこの樣なことを考へて居たのだよ。今だつて此考に違はないけれども、それでも今日はもう末の樂が明白と眼の前にちらついてきたのだから、昨日の考へとはそこが全く違ふ。加之其末の樂と云ふのが今から想像して見ても、ぞくぞく身ぶるひがして仕樣がないほど嬉しい樂なんだもの。

ソコで貞ちやん、改めてだがれ、お前が僕を愛すると云つたのは屹度虚言ではないだらうれ。私は心から底から眞實と思ふけれど、どうか念の爲め今一度眞實なら眞實といふて下さい。お前と一緒になつて愛嬉をしたり、せられたりする身となれたなら、僕は其時嬉しさ餘つて發狂しはしまひかと氣遣ふのだ。

ア、。貞ちやんの一言は眞正僕に大安心と大歡喜とを與へたと云ふものだ。此謝意は言葉や手紙には盡くせぬから、どうか察して下さい。今宵は定めし貞ちやんの夢を見て樂しきことだらうよ。貞ちやんもよくおやすみ。

又約束の通り澤山（そしてまだ約束せぬ分のも）愛しき接吻をお前の頁人にさして呉れる樣頼むよ。

ユゴー拜

なつかしの 藤澤お貞樣

呼吸運動

近藤常三郎

これは主もに肺臓氣管等、呼吸に關する機關の運動法にして、學校にては多く他の運動の前後、又は中間などに行ふ。

器具も何んにもいらず。至極簡單で、男女老幼の別なく、何人にも出來る。全部第一節より四節までに分れ、皆號令によりて正しく行ふやうになつてをるが。

こゝにはまづ單獨で、家庭に於て隨意に行ふものとして述べやうと思ふ。

一、毎朝起床して嗽を終りし後（但し朝にのみ限らず。いつにても可なり。就床のとき、又はながく仕事をつゞけ、精神の惱みつかれたるときなどはことによし。）全身を眞直にし、胸を十分後方に開き、兩手を腰骨の上にをき、肘を兩側にはる。以上運動の用意。

大空に向かつて充分に吸氣をなし、後一齊に呼出す。（すべて吸氣のときは鼻孔より。呼出のときは口にて。）

かやうにして、これを反復する事三四回に及ぶ。

二、身體は前のごとくし、兩手を自然に垂れ、股側につけたるまゝ。（不動の姿勢）

靜かに充分吸氣し同時に兩臂を側方より徐々頭上に擧げ暫く止まりてのち、再び手を下ろしつゝ次第に呼氣をなす。この運動は呼氣も吸氣も出來るだけ徐かに、云はゞ細く長くといふやうに行ふのがいゝ。

（三四回）。

三、用意は第一のときに同じやうにして、徐々に充分吸氣をなしたるのち、吸氣の保ち得る間、兩掌を以て輕く胸部の所々を數回交互にうつ。次に兩手を以て胸部を壓し、一齊に呼氣をなす、二三回反復。

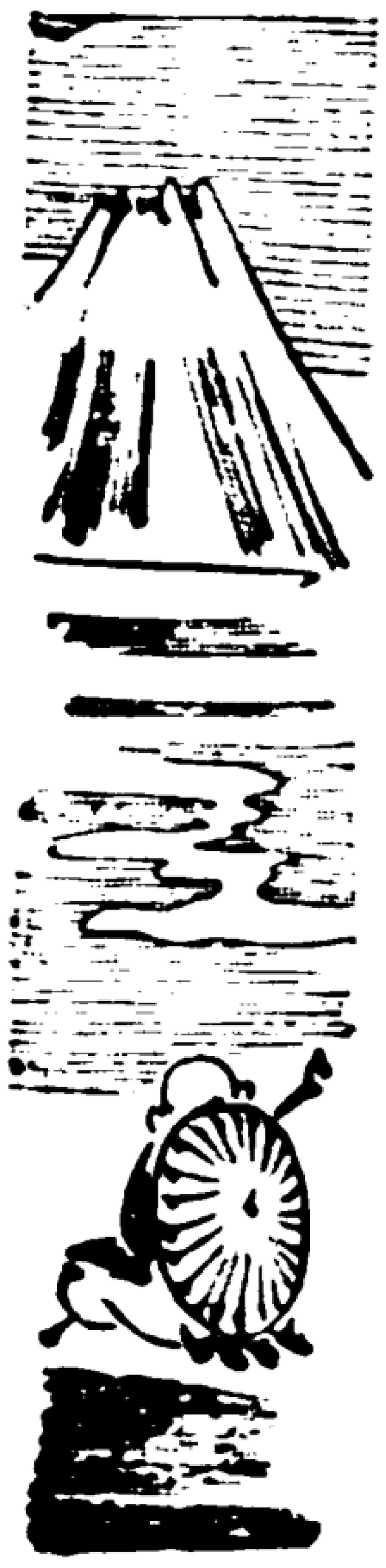
四、三のときのごとく徐々に吸氣をなしたるのち、口を開き咽喉部より吐出するやうに、勢よく急速に呼氣す。（これも三四回行ふ。）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

方法はこれ丈け、順序はいづれを先きにしてもい丶。出來るだけ深く充分に呼吸して、すこし苦しいとおもふ位にてやめるのです。空氣の非常に寒冷なるとき、甚しく濕氣を含めるとき、不潔なるとき、又咽喉部に疾病のあるとき、あまり空腹のときなどは避くるがい丶とおもふ。

呼吸運動を毎日行ふときは、第一肺臓氣管の强健になるは勿論、これがために血液の循環を盛んにし、（寒くして身體のすこしくふるへるといふやうなときに行へば、たちまち全身溫まり、確然とするをおぼへる。）又横隔膜、胃腸等の運動を助け、これがために大いに食物の消化をよくすることは確かである。

世には極めて簡單平易で、而も實用有益なる事柄をば、何んでもないつまらぬものとして顧へりみぬのが多い。呼吸運動のごときも其一つであらう。



△平民文學

食後、俳句の本を開いて見ると、なか〱面白いものがある。若しも文學が上品な家庭の装飾品であるならば、句作は慥に平民的家庭の文學である。

△雛見世の灯を引く頃や春の雨　蕪村

如何にも艶麗な光景を想像させる。雨になる迄に雛見世には如何に多くの娘達が、美しうおつくりして集つて居た事であらう。併し今は夜も更け、人も去り、灯を引かうとして居ると、しよぼ〱と降り始める糸のやうな雨。

△春雨や物書けぬ身のあはれなる　蕪村

巧みに詠んだものである。障子の硝子越し、しとやかに音もなく降る春雨を。じつと座つて見て居ると、その見て居る人の心が矢張り春の雨のやうになつて來て、しと〱と軟らかな美しい感情が胸一杯に湧いて來る。ある人は戀しい君を思ひ出すであらう。或人は親の事。或人は妻の事。併し文字のない身の悲しさには、その胸の思ひを、何としても表し得ない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人體と社會

加藤八山

家庭雜誌愛讀者諸君には初めて御目に懸りますが、小生は醫を業と致して居る者で御座りますから、爰に小生は小生の柄に合つた衞生談を聊か致さうと思ひます。

身體の諸部分は猶は此社會の如しで、社會の人々が皆各個の職務に從つて平等に働き、而して社會生存の目的に向つて力めて居りまする樣に、身體の諸機關も亦各其職務をもつて平等に働かなければなりませむ。若し身體諸機關の活動にして不平等であつた時には、之れ亦社會の人々が不平等に働く時、其處に革命、反亂等の騷動が生じます如く、身體も乃ち完全を缺いて、病氣と言ふ禍亂が起きるのであります。左に揭げまするのは、此等を説明するに最も適當なる談話と思ひます。

前申す如く人の身體を社會……或は國家……に譬へまするど、先づ頭部は中央政府で口、耳、眼、鼻は其行政機關であります。而して肺、心臟、胃、腸等は地方團體として中央政府の統轄の下にあるので、其れから手、足、は勞働者で、指は指、關節は關節、皆各其職務に從ふのであります。斯くて以上の諸機關が忠實に平等に働きまする時、人間の身體は實に健全强壯少しの病もないのであります。

然るに或時、中央政府の政道甚だ亂れ官吏の心が腐つて、眼の役人は美人に戲れ、口の役人は美いものを食ひ、耳の役人は音樂を聞くに餘念なく、鼻の役人は馥郁たる芳香に醉ふといふ始末、斯くて彼等は無闇に無用の金錢を費ひ、爲に其他の諸機關から切りに税をとりたてる、諸君、此處に言ふ金錢とは血液のことで、身體の諸機關が其働きを爲すには何ふしても此血液の助力を藉らなければなりませぬ。トコロが中央政府は無闇矢鱈に其血液を費ひますから、乃で他の諸機關はそれを送る事が出來ない、ツマリ租税を取り立てゝ民間の資金を政府に吸收げると同じ理窟なのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

扨サウなると第一に困つたのは胃袋です、元來腦と消化機關とは互に交換的の働きを致しますもので、俗に腹の皮が膨れると眼の皮が弛むと申しますが、これは實に生理の原則を説明した言葉で、腦の働く時分には消化機關の血液が腦へ行く、消化機關の働く時分には腦の血が消化機關へ來ると言ふ樣に、兩々有無相通じて交代に働くのであります。然るに今や胃は肝甚の血液が悉く中央政府の腦へ取り上げられて了つたものですから、大切な胃液を分泌する事が出來なくつて、胃の中は恰で涸れきつた池のやうになりました。胃液が充分なくては食物は所詮充分に消化す事が出來ないので、乃で胃は儘よとばかり、アラ消化しにして食物を腸の方へ送つてやつた。所が御承知の通り腸は胃のやうに大消化をする力がない。唯だ胃で以て充分に消化された食物を、更に乳化させて之を血管の中に遣り、其精をば肛門に送るに言ふのが腸の役目なのですから、其樣なアラ消化の食物を胃から送つて來たところで詮術がありませむ。でこれは亦えーッ面倒なといふ次第で其儘肛門の方へ放り出したから溜りません。忽ち下痢といふ大反亂が起り、其れより其れへと擴がつて身體は恰も佛國の革命戰爭のやうな大騷ぎとなり、時には命を滅却しむる事も出來ます。

又或時恁ふ言ふ事がありました。中央政府が徒に口から食物を消化機關へ送るばかりで、身體を少しも動かさないので、手、足、の勞動者は職業が無くツて實に困つた。乃で大に不平の聲をあげて勞働者大會を開き、近來政府が吾等を壓制して職を與へぬのは實に不屆千萬である。ドー爲たら吾等は此苦しみを脫れる事が出來るであらふ。政府の暴政に苦しむで居る者は必定吾等ばかりではあるまいから、吾等は大に其等の同志を集めて政府攻擊を爲やうじやないか。それには先づ最も吾等と近い、胃太郎腸九郎の兩々に謀つて見やふと言ふので、早速件の兩人を訪問して其意見を叩いて見ると、果して兩人は大喜び、僕等も實は今にも政府攻擊を初めやうかと思ふて居たところだ、と言ふので大に四肢の勞働組合を助けて、此處に大同盟罷業を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

起しました。乃で彼等は先づ、同志各部にある血液を一時に悉く中央政府の腦に向つて送り返した。サー中央政府にとつては一大事件が起つた。血液が腦へ充溢すると共に、口からは吐嘔をする。眼は眞ッ紅になる。耳は鳴る。鼻からは血を出さんとし、腦頭痛、眩暉の爲に苦しむといふ大騒動、同盟罷業の面々に於きましては、年來の欝憤今こそ破裂したりけり、奸惡無道の役人原、目に物見せん時こそ來れ、ものども後るないざ進め、刀も折れよ矢も盡きよ、敵の降參する迄は死しても死なじ武士の魂とばかり、腹部で、雷鳴的軍樂を奏し、肛門からは大砲を亂發し、此處を先途と攻せかけしは實に凄まじき有樣なりとでも申しませうか、流石の中央政府も之れには一方ならず驚きまして、早速媾和を申込みましたので、此處に媾和談判を開くことになりましたが、政府に於きましては先づ勞働者に賴むで活動を初めて貰ひ、從て腦の血液は身體各部に平等に分配し胃は消化液を給與せられ、腸も亦適宜に消化排泄の務に從ふ樣になりましたので、初めて萬事整頓、こゝに平和は克復せられました。

以上の談話は只消化機關の事丈を述べた誠に簡單な小供だましに過ぎませんが、併し小生は之によつて衛生上の注意の概略をお話したと共に、一面に於て身體の健康は衛生法に則とらねば、如何なる富者と雖も金を以て之を買ふ事は出來ぬと同じく、實際の社會組織に於きましても人道といふ衛生法に由らなければ、到底健全なる社會は出來ぬといふ事をも述べたと自ら信じますから、これで擱筆します。終に臨んで素人の衛生法として

△食事十則

を掲げましよう。

一、食慾の無き時は食べぬ事。

日本では日に三度づゝは必ず食するものとばかり思ふて居ますが、それは決して正しいことではない。食べたくないのに食べるのは、甚だよろしうありません。空腹を感じたとき、初めて食するのが宜しい。三度と定める必要はありません。

二、起床後一時間程經て食事すること。

寢て居る間は腦神經を休息せる爲に血が腦へ來て居ますので、

起きて直に食事すれば、血を胃の方へ遣る間がない譯です。夫故暫く待つて初めて食す可きです。

三、朝は輕いものを少量く食べる事。

四、食事と食事との間は五時間乃至六時間へだゝる可き事。

五、激動の後直に食事をせぬ事。

これも身體を動かして居る間は、手足の方へ血が行つて居ますから、それが胃に來るまで待たねば食物が消化しません。

六、入浴后直に食せぬ事。

これは血液が皮膚の方に集つて居るから、暫く待たねば胃中に血を遣る用意が出來ぬからである。

七、腦を使用したる後直に食せぬ事。

これも頭を使つて種々考へ事をした時は、頭部に血液を給せねばならぬから、胃の腑に遣る間がないからです。

八、間食をせぬ事。果實菓子は食後に限る事。

九、咀嚼を十分する爲、食時間は快談して精神を愉快にし、成るべく長くすべし。

十、身體を屈めて食事をせぬ事。

これも亦胃の働きを妨げるからです。依てテーブル又は食卓を將來の膳と代へる事。（未完）

△母と子供

何時も世の利益になる書物を出して、眼のある人の信用を得て居る、京橋の警醒社から、また〱此度「母と子供」と云ふ可愛い單行本が公にされた。就いては、こゝに此良著書の紹介かた〱、二三の好文字を摘録して見やう。

「日本の家庭では、母はあまい者、父は恐い者としてあります。子供を統御する權は父のみにあるもの丶樣にしてあるのは、何よ大なる間違ひではありませんか。子供を教育するには、母はどこ迄も威嚴をもつて居なくてはなりません。一度でも其威嚴を侵されゝば、再びそれを取り返す事は出來ません、……母は愛ばかりでは子供を教育する事は出來ません。母は自分よりも外の人間によつて、子供を支配しやうとしてはいけません。子供が云ふ事を聞かぬと、それ怪物が出るとか、お父さんに叱られるとか云つて、子供を嚇して順はせるのは、自分の威嚴を失うのであります。母にはどこ迄も自分の威嚴で子供を支配する權利があります。」

又他の項の中に、

「母が子供に「するな〱」と言ふよりは、「せよ〱」と云ふ方が子供の爲めによいのです。「するか〱」と云ふ事は活動を制止する事で、「せよ〱」と云ふのは活動を励ます事であります。不活潑な人物を作ろと作らぬとは母の心得一つであります。赤子が新しい新聞を破らうとすれば、破らしてもよい古い新聞に代へて、其思ふ通りに破らして遣つた方が宜しいのです。」

因に本書の著者は田村直臣氏である。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭通信

今後は右の題目の下に毎號趣味ある通信を掲載し、云はゞ一種の家庭倶樂部の代用を勤めさす考へです。理想の高い家庭と家庭とが、互に樂みを分ち、悲みに同情し、或は智識を交換して、新しい經驗を加へるなどは至極妙ならんと思ふ。何でもよろしい。思ひ付いた事があつたら、捲紙にでも書いて投稿なさい。一つは自分の思想發表の助ともなりませう。當分の内は五號活字を用ひますが、編輯の都合で六號にする事もないとは限らぬ。尙ほ記者はなるべく其投稿の簡にして明なるを欲す。謹白。

和洋折衷料理

紀伊森亭

元來和洋折衷と云ふ事は、何所かに無理の出來るもので、殊に料理の如き、我慢すれば食べられると云ふ位では、折衷の甲斐がない事になります。左に掲げた品々も私が日頃實驗した事で、我等日本人の口には結構であらうと思ひますが、生來みそや白魚や、かきもちの味に慣れぬ西洋人の口には如何なものでしうか。ひろく御批評を願ひたいものです。

○味噌のサラド。マヨネーズ、ソースを造るは甚面倒な手數と時間を要し、氣のせく時など往々出來そこなふ事があります。私は味噌に油をエモルシファイ(乳化り？)する力のある事を考へ、上等の白味噌を裏漉にして卵黄に代用して見ましたが、卵の如く極少しづゝ油を垂らす必要なく、一度に十滴乃至二十滴を加へても分解する恐なく、僅の時間に出來上り、味も甚だ結構でございます。其製法は普通のマヨネーズと少しも變つた事はなく、唯卵黄の代りに其倍量以上の味噌を用ゐ、鹽を省くのみでよろしい。

○カレーの味噌汁。普通の味噌汁を少し濃く爲し、出來上りたる時、一合につき小匙に半分乃至一杯のカレー粉を加へ、溫かき御飯にかけて食べます。汁の實は鳥、牛肉のたゝき、若くは脂つよき魚類と葱、人參、蕪などの取り合せが適當です。或は玉葱とカレー粉を別に脂肪でいためてから加へてもよろしい。

○白魚のスープ。牡蠣のスープの如く白魚を牛乳にて煮、バタ、鹽、胡椒を加へ、ソーダ、ビスケ(クラ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ツカー）を添へて出します。

○乾餅と卵。　普通のかきもち五六枚をよく炙りて皿に容れ、ざつと沸湯を灌ぎ、柔かくなつた時、少しくバタをぬり、其上へ半熟の卵一つか二つを割り、鹽と胡椒をかけます。これは一寸ポーチド、エッグ、オン、トーストの様な味で、麵麭を得難き田舎では可なり重寶だと思ひます。又之は病人に食べさせても構ひませんが、其場合には醫師の意見を聞き、バタと胡椒を除く必要があるかもしれませぬ。

我が家庭と友の批評

武蔵　清水城山

余は一個の小學教師である。師範校を出てから、四年も獨身生活をなし、昨年十二月結婚したが、固より薄給の身であるから、夫婦共稼ぎと云ふでなくては、とても樂しき生活は求められぬ。其上に子供でもあつて不幸にも、僕が中途で倒れる様な事でもあつたならば、妻子を路頭に迷はせるだろうと思つて、色々妻と相談の結果、妻が造花を習ひたいと云ふので、遂に一年の暇を與へて芝の美術學校の造花專習部に入れた。然るに昨冬本誌に載せられた。田川先生の演説中に、細君の內職を望むと云ふ一項のあつたので、特にうれしい感じがした。

以上の如き理由で、僕は結婚して一年にもなるが、家庭なるものを味はつたのは僅に三月斗、別に人様にお話するに足りる様な事もないが、其間に僕の家庭に向つて、親友から送られた批評を玆にお示し申ます。もとより手紙の片端に書れたの故、充分ではありません。

さて僕が君の處に宿りし時の感をいふて見やうか第一君が妻君に對して**キヨサン**（妻の名喜代）と呼ばるゝ事、是ぞ最も僕の家庭につきての理想の一條件だ。女は男の上に權を取るべからず、とは聖書の敎ふる處なれども、是れ女子に對する敎訓で、男子が女子に對する態度を示されたものではない。我々は十分女子に向て同情を寄せねばならぬ。多くの家庭を見るに、夫婦の間睦まじからざるは、お互が思ひやりの足らぬのと、禮の足らぬとより來る様に思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ひます。彼の男尊女卑の風は、トテモ家庭の圓滿を計るものではない。

女子は愛すれば増長するものなりやとの御疑ひだが、女子に罪あればとて、男子が女子に對する道たる愛と禮とを減じてはならぬ。と思ふ。男子は女子を叱るべき資格ありやとは、僕の疑問だ。僕は信ずる叱責は神にあり。僕等はあく迄愛と禮とを以て接せざるべからず。

貧世帶と主婦の覺悟

兵庫　人の妻某

妾は今年二十九で三人子持で御座います。夫は妾より四つ上で、鐵道郵便係を奉職して居りますが、誠にお恥しい薄給の身分故、家庭と申してもほんの名ばかり、折々雜誌などで、御立派な家庭の家計表を讀みまして、羨しいやうな。氣が致すのです。けれどもまた雨にぬれ乍ら、夫が夜勤を了へて歸つて來た時などは、何とやら氣の毒になり、急に以前の羨望の心が變つて、かうやつて貧乏して居るのが嬉しいやうにも思ふのであります。妾は隨分娘の時は我儘者で、望も大きかつたのですが、矢張家の事情と、それからもう一つは眞の戀が妾の心にまだなかつたのとで、到頭兩親の云ふが儘になつたので御座います。

今日ではもう妾の運命も大抵定つたと申しても宜しい。それ故切めては此位置を飽く迄忠實に守り、一生懸命になつて貧乏世帶を持つ事が、妾の幸福ではないかと思ひます。そうして、只一つ樂みな事は、此三人の子供を眞實の人に育て、自分一人でさつさと相手を選て結婚をするやうな頼い人間にしたいと思て居ます。

朝の課業

加賀　ふたは

目が覺めた、書物箱の横の窓でみると、追付六時らしい、自分の癖として、目が覺めるならフイと起きられぬ。いろんな空想に耽けつたり、考へたりする。其の中六時をうツた。起きた。枕頭の書物や雜誌を仕末して、さて庭面を眺めて齒を磨き初めた。

妻は臺所から水差と、白い水仙の花を持つて來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分はそれを机上の花挿(これは條件付きのもので、人のもたぬものである。自分は机上に是を供へて置いて、絶えず新しい花を何程でも幾本でもワヤ〳〵に挿して置く、そうして暇さへあれば、それを寫生したり解剖したりする。研究濟の奴は、拔いて妻の方へやるのである)へ挿す。漸く新しい香に飽いて顔洗ひに出る。

冷水摩擦もよいが、どうも此の着物を拔ぐ迄が大仕事だなど〳〵細語きながら、それも濟んで、こんどは裏木戸から近邊を散歩するべく出た。

隣家の垣根にチョイ〳〵見へるのは白い可愛らしい花の黄蓮で、其の傍らに小さな緑の圓い葉を、陣笠の行列然と並べて居るのは、雀の茶釜と云ふて小兒達の珍らしがる草。向ひの松林の下に、白い大い花を梢頭に飾りつけて、緑の松と其の翠を競ふて居るのは白木蓮、その上の方の顕眞大師の墓の邊に、黄色の雪を枝梢に飾りつけたやうなのは、やがて眞紅の實を結ぶカナメモチである。

二三町しかない山際の道まで來た時、碧色の空と、赤茶色の嫩芽の山の間から、日光の黄金色がパッと現れた。と同時に、山も草も木も家も金色を浴び、同時に今迄の眠りから俄かに醒めて、活動と希望の色を湛えて居るかのやう。

自分は此の光景中の者となりつゝ、枯芝の中に紫色を點綴して居る、可愛らしい菫の三種を得、遠山の旭の櫻に見惚れながら、朝の散歩を終へた。

歸ッて朝飯を濟したら郵便が來た、米國の種子屋から目錄が來たのだ。オオ美しい!!表紙の奇麗なこと、日本にはとてもこういふものが出來ぬから困る、など〳〵小言を云ッて居ると、妻が向ふの壁をちよッと御覽なさいと云ふた。此方は壁どころか、大事の奇麗な書物を見るのに忙かしい。が、妻が一人で何か感心して居るやうなので、ちよッと横を向いた。オヤ!見事な繪だ、一體何の附錄だい。なーに目錄の附錄を除けて一人でみたのだと、こいつはタマらんコンな美くしいのを分捕されては。

時間が來たので、急いで出勤、これは例の通。

二葉園藝

エデンの花守

○秋蒔く草花

まだ花の種子を持つて居られる方は、大至急お蒔きなさい。いつ蒔くのか、どうして蒔くのかなど〻難かしがらず、光線と少しの濕り氣の見舞ふところで、土さへあれば、石コロの間にでも蒔きなさい。蒔くには種子が見えぬ程土を蔽へばよし。

種子の下し加減は、其の良惡新古に依つて一概に云へねど、種子と種子が重り合はぬやうにさへすればよい。生えてから多う過ぎれば間引いて花の苗として隣りへでも贈ることです。肥料は二三寸に成長してから施るがよい。しかし餘分にやると莖葉ばかり成長して花は割合大きくならぬものだ。又、濃い肥料を根際へやるのはワルい。花の肥料には灰が得易くて、花が大きくなつてよいやうだ。

兎に角花は植物に咲く以上、それを蒔く時は、春、秋、兩季を通じてよい。けれど産地の關係上から秋蒔かねば面白く行かぬものもあるが、それは、昨年の第七號で申上げたから、あれ以外のものは早速御蒔きなさいと繰り返して置きます。

先は花守の本職として一寸申上げたまでゝすが此の時節に於て、草花以外更に一歩を進めて、

○美しい果物と見事な蔬菜

是を作つて下さらん事を皆さんにお勧めする、敢て利益はどうの、時節がどうのとは申さぬ。唯花を愛し育てる趣味の範圍を擴め、運動の範圍利益の範圍も擴めて、果樹や蔬菜を栽培して下さつて、新鮮にして見事な蔬菜を食膳に供し、美しい立派な果物を食後に嗜み、且つ小供達を賑はしてもらひたいのである。今はシナビた黴菌のついた蔬菜や、腐つた小さいマズい果物に舌鼓を打つ時ではありますまい。

○我々の胸底のささやき

世の多くの家庭雜誌は、近頃になつて「草花」とか「園藝」とか云ふことを語り出したのは、自惚か知られどあれは本誌を眞似るのか、或は本誌が此の傾向の動機を作つたかと思ひます。それはそうと這般のことは、大に喜ばねばならぬことで、又、自然物に對する趣味の糸の如き涓流が、如何に我々の胸底に細語きつゝあるかを知るに足るのであります。こゝに於てか本元の本誌では一層の勇氣と精勵とを以て、渚山兄と共に、この趣味の傳導者となり、鼓吹者となり、研究者となるべく諸君に誓ひます。本號から題の如き一欄が特別に出來ましたから、花に就いての質問はどんなことでも聞いて下さい。一々誌上にお答します。

○蚜蟲の退治方

小生の大事の〳〵花が、昨年蚜蟲にやられましたから、今年もと思へばイヤになる。で彼奴の驅除法を誌上で御聞かせ下さらば、決して僕一人の喜びではなからうと思ひます。（遠州、小笠山人）

單に蚜蟲と書いても、地方によつてはアリマキ、アブラムシ、ブリノコ、シンマキなどいろ〳〵に云ひますから、皆さんに其のおつもりで聞いて戴きたい。又、蚜蟲には幾種もありまして（一）豆類を食ひ荒すもの（二）果樹を困らせるもの（三）菜類を食ふもの（四）稻麥に發生するもの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(五)草花に發生もの、など御座います上、形も色も性質も少し宛異うのであります。今之等の野蟲の一般退治法と云ふところを左に書き并べます。尤も今のところでは速効の退治方と云ふのは發見されぬやうです。孰れ新説が出れば紹介しますが、昆蟲專門の學者でも今はまだ野蟲研究の濟まぬ時と申して居ます。さうでもありましやう、去年やつと、土中に居て根を喰ふ野蟲のあることを發見された位ですから。

▲「自然奥秘の第一頁」でも申しました通り、同類の瓢蟲。ヒラタアブとも云ふ先生に喰はせることです。之を自然的驅除法と申します。

▲彼れは雨が嫌ひだから、此の性質を利用して、灰汁、煙草屑の煎汁などを、天氣のよい日中にブツかけてやることです。たび〳〵。

▲四五十倍の石油水劑(追つて製法の秘を漏します)を如露などで撒きかけるとよいです。

▲差支ない以上は、彼の巣窟たる嫩芽を摘み取つてやりなさい。

▲氣持が惡くなければ、潰し殺して御覧、屹度効能があります。

▲彼れを蟻先生が貰ふて來て移ろものだから、木なり草なりの嫩い内は莖の下方へ鳥取モチを環狀に卷いて、蟻の上ろを防ぐも一寸面白い方法だ。

▲朝露のある間に、木灰を撒きかけてやると最も彼の繁殖に障るやうです。

マアこんなものですな。

○土龍防ぎ

土龍の害を豫防するには、畦の周圍を藁で圍むことです。それには先づ畦の區劃丈測量し、其の區劃内の周圍に表土丈けの深さの小溝を掘りまして、別に二つに切つて置いた藁を其の溝の外側へ斜に一列に寄せ

かけ、内方から土を寄せるとウマくなります。このやうにして中の畦や床に何を蒔いてもよいそうです。しかしこれは小面積にすることで、一畝歩五畝歩となればコンナことは出來ませんが、其の時には別に其法なく、唯た彼の不意に通つた跡を、苗と共に上から抑へ付けて置くぐらゐのものであります。尤も彼奴は、何處から何時來るとも知れぬ代物だから誰れも其の豫防驅除法に困りきつて居ます。

○唯　君へ

仰せの花の記載方に就いては、目下斬新な法を考案研究中、孰れ發表します。今迄學者や學生のやつて居る奴はカラ沒趣味であります。

又、樹木に發生する毛蟲に就いては、標本か實物を拜見せねと、幾種もあるので分りません。右御承知を願ひます。

(二　葉　生)

寄贈雜誌新聞

「社會主義」八ノ六「少年」七「家庭の友」二ノ二「商家之友」二ノ五「帝國文學」十ノ四「二十世紀の婦人」一ノ三「をんな」四ノ四「常磐」七ノ四「婦人新報」八ノ三「通俗宗教談」十ノ一「國の教」九ノ六「佛教婦人」四ノ四「學友」八ノ三「中學科講義錄」「新人」五ノ四「求道」一ノ三「朝鮮評論」一「平民新聞」「家庭新聞」「婦女新聞」「家庭教育新聞」「大阪タイムス」「戰時家庭新聞」「本派新報」「評論の評論」以上毎號 "The War News" 第五號

此頃の朝

びつたりと雨戸を閉ぢた儘の椽側で、こと〳〵と眞夜中に鼠が悪戯をするやうな物音が聞えて、目の覺めるのが此頃の例となつてゐる。自分は不圖何時ものやうに、茫然と霞んだ眸を枕時計の針に向けると、もう八時と云ふ刻限に近い。非常な朝寢――成程これは朝寢であらう。けれど、考へても見玉へ。よもや、今日此頃の寢心のよさを、誰も知らずに居やう筈があらうか。明方から此方へ、とりとめのない丸で舞臺の早變りのやうな夢をば、うと〳〵と暖かい搔卷にくるまつて見て居る心持は、丁度自分の身體が、日光の恩を受けた眞赤な花の褥の中で、そよ〳〵と吹いて來る風に搖られて居る、浮かれ蝴蝶になつたのではあるまいかとも思はれるもの。一旦目を見開いたもの丶、瞼がどうも重いので、其儘立てかけた片肱を崩して、未練らしう横になると、妙に魔醉劑でもかけられて居るやうに、又も戀しい夢路に入つてしまう。しばらくすると、今度は以前の雨戸をば、それに身を摺り寄せて、「ぢいちやん。」と二三度自分を呼起す者がある。每朝の事で、これは自分の戀人ではない。と云つて又遠方から來た客人でも無論ない。しかし、自分は例時でもこの呼出しに逢うと、胸が立騷がぬ迄も、何となく氣が落付かないで、知らぬ振しては居られない。思切てその懷しい床から飛び起き、「お早やう」と云つて雨戸を開ける。その途端にもう一度、嬉しさうに自分を呼掛けるのが、今年々弱の四つだと云ふ、母屋の坊樣！

新しい威勢のよい日光の差しこんだ可也廣い椽側は、もうすつかりこの朝の早い坊樣の玩弄物で、片足を入れる餘地もない迄になつて居る。大方行李に入れたら、二三杯もあるだらうが、この總大將は必ずこれを一時に打開てしまはねば承知をしない。自分はこれを見る每にさう思ふ。この澤山な玩弄品が一として滿足に殘つたのがないのを驚く位ならば、寧そ、性も懲りずに買つて吳れる、叔父叔母を澤山持つて居る坊樣の幸福を羨しく思つたらよからう。實際この坊樣は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

他人の前へ出てから、ついぞ人見知りや何かをした事がない換りに、意地が強くつて悪戯が劇しい。身體は申分なく肥つて居る、その出來際の餅のやうなふくらんだ、小やかな腕で喇叭などを振上げた折の元氣さと云ふものはない。兩の頬は血の所爲でもあらうか、冬の頃、上方へ行くと、ちよい／＼畠に殘つて居る、あの赤蕪その儘の色艶で、ぽつちりと愛ぐるしい目を常住活々と輝かせて居る。

　自分は揚子を使うて、廣い庭の青葉の景色を一渡り眺めると、大方時刻が來たのであらう。梅の頃から馴染の老鶯が、忘れずに訪ねて來て、女竹の生茂つた中で、頻りと谷渡りの二段返しを試みて居る。其眞下には山吹が一株、云はゞある程の盛装を凝した婦人が、身輕に歩みかねて居るやうに、華美やかに咲いた自分の花の重みに堪へない風情が却て面白い。新築の離室の横手では、純白の躑躅が四五本、岩の間に露を含んで笑つて居るし、自分の直ぐ前には大形の白椿が若木に似合はず、群る程に花を持つて賑やかに朝日の光を浴びてゐる。毎朝の眺望ではあるけれど、自分はこの自然の色彩で目を驚かす事が、何よりもよい仕方だとさう思ふ。母屋には夫婦の三毛猫が居て、此度七つ子供を産んだとやら。母親はそれの世話にうき身をやつして居るのに、察しのない怠惰者の夫は、何時も朝の間はこの椽側で樂さうに足手を延ばして日向ぼつこ。それでも、遠慮は知つて居ると見え、玩弄物から一尺計りも離れた敷居の上に居て、始終ごろ／＼咽喉を鳴らしながら、如才のない媚を作つて居る。無論母屋のチビは先程から矢張り坊樣の側に侍つて居たけれど、性來脚が短い上に、生憎椽側が高いので、靴ぬぎの下でもどかしげに衝立て居ると、隣の飼犬で眞黒な西洋種が、チビを驅拔け、首を延して椽側の玩弄品をば一つゞゝ嗅ぎまはる、坊樣はそれに氣が付くと、一寸不快の念を起したかして、ブリッキの鐡砲で力一杯にたゝかうとするけれど、相手は一向平氣で、今一層長い首を差のべて、ぺろりと計り、坊樣の鼻の下を奇麗に舐めつくしてしまう。これには流石の坊樣も吃驚して、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

泣顔を作らぬ時とてはない。

毎朝こんな調子で、すつかり目を覺ましてから、自分は今度は南向で、母家の椽側に控へて居る、可愛い鸚鵡を見舞うのが例になつて居た。云ひ合した譯ではないけれど、丁度又其時分には、年増乍らどこかに上品な處のある細君が、ぞろりとした風俗で、わざ〳〵こゝ迄出稽古にやつて來る。名はお竹ちやん。住居は表面に金網をはられた方二尺角の一間で、鸚鵡は何時も其中の主人公。低く渡しかけたとまり木の中頃に、沈着な身構をした處が誠に可笑い。毛色は白でもないし、桃色でもない。一寸あのミルクの中へ薄く融かした紅を少し散したら、あんな色合が出るかも知れぬ。母屋の細君には、それは隨分とよくなついたもので、一時物案じでもするやうに、薄黑い口を閉ぢて一言も云はない折でも、懷しい人の顏を一目見ると、もう飛び立つ程に嬉んで、自身の名をば二度も三度も呼び上げる。細君は優しい笑顏を差向けて、「鶯は?」と尋ねると、「ホーホケキヨ、ケツキヨケツキヨ。」と直に鶯の音色を眞似るし、「佛林狗呼んどくれ!」と云ふと、「コトコトコトコト……」と、巧みにそれは呼で見せる。こんな按排にお竹さんの覺えた言葉は、多分坊樣の知つて居る言葉數よりも多いだらう。それを一々細君に復習をして貰つて、朝の御飯を戴くのである。自分は何時でも、この不思議な藝者には餘程深い興味を感ずるのであつたが、歸りがけに一つ、細君の口吻を學んでからに、「犬は?」と尋ねても、彼は更に聞えぬ振で、日中の梟と云つたやうな態度をして濟し込む。腹は立つけれど、强ひてさからうと、黄色な頭の羽毛を逆立てゝ怒るから、其儘にして其處を去らうとすると、彼は自分をからかふ積であらう。出しぬけにけたゝましい聲で「キヨ、キキキ……」と頻りに後から愉快げに嘲笑ふ。

以前の椽側では相變らず猫は正體もなく寐て居るし、坊樣は傍の者には解らない、自分獨りの國語を使つて、新しい玩弄品をこわして居るし、二匹の犬は庭石の上で、起きつ轉びつ、白い歯をむき出して戲れて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居る。竹藪の鶯丈は何時の間にか居なくなつて、隣家の庭前で、聲を惜まず囀つて居るのが微かに聞える。表の方では、耳馴れた豆屋の鈴が垣越しに洩れて來て、御定まりの女中はそれに聲掛けつゝ、慌てゝ石段を駈けて行く足音。椽側でそれを聞きつけた耳の早い鸚鵡は、一生懸命に聲振立て、「豆屋さん〳〵。」と一所になつて呼びかける。此時である。大抵の日はチンと一つ三十分の報知を聞くのが常で、机の上にはミルクが丁度いゝ加減にさめた頃なのであつた。定つては居ないけれど、又折によると、これに續いて、好な琴の音がする事もある。それはてつきり隣家の娘樣が、例の鶯の妙な調にそゝのかされての思ひ付であらう。そんな時には、自分は屹度幸福な朝よと、獨りで感謝するのである。

私の書齋兼座敷の庭は、目下丁度晩春より初夏の頃にかけて咲く花の眞盛りで、各自に獨特の化粧をして毎朝私等の心目を娯ませて吳れるです。一日私はこれから思ひ付き、曾て妻と共に麴町なるある家の離室を借りて居た頃に、料らず書捨てゝ置いた一小篇を今新に訂正し、こゝに掲げる事に致しました。（洛山生）

△平民文學

△影法師他所の田を打つ夕日かな　其角

なか〳〵洒落な罪のない句である。一體畑打と云ふのは其仕事其自身が既に俳的に出來て居る。田舍道を通ると此樣な景色によく出逢ふ。

△畑打や耳うとき身のたゞ一人　蕪村

娘や忰は兎角仕事を嫌つて、ともすると遊びたがる。併し聾の老爺さん一人は、降つても照つても野良仕事。……と想像してもよし、又若い者は若い者同志話が合ふ。聾さん一人は何時も獨りで彼方の畑をこつり〳〵

△畑打やいつくはあれど京の土　嵐雪

此句を讀むと特に西山邊の田舍を思ひ出す。いや西山よりは吉田、加茂の邊を思ひ出す。京の田舍にはいつも霞が棚曳いて、天女の裳が畦道へでも垂れて居るやうに見える。平和、靜謐、太平の象は京の土を措て外にはない。この間に野心もなく利欲もなしに畑を打つ。如何に幸福なる農家の人々よ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文庫を飾るべき新出版物

▲▲▲▲『勞働問題』は曾て堺氏が連日萬朝報紙上に譯出して、當時多くの讀者から著しい歡迎を受け、社會主義者ならぬ門外漢をさへ、一時其流麗にして趣味多き譯筆に醉はしめた程であつたが、これが愈今度立派な本となつて春陽堂から出た。元來飜譯と云ふものは六ケ敷い業の一つであるが、氏の筆にかゝると、どの小說でも如何にも容易らしく、すら〲と少しも讀者を飽しめぬ。改めて全篇を通讀するに、流石は大作家の著作丈あつて、純然たる一個の寫實小說として見るも、慥かに人生の機微を穿ち、人間界の理想性即ち上帝の心と、私慾性との衝突が如何に悲劇の歷史を作り出すべきかを、實例に於て示してある。若し夫れ社會主義者の眼光を以てこの一篇を繙くならば、言々皆な玉、句々悉く金、更に美しき新理想が汪洋として全紙幅に溢れて居るのを氣付くであらう。主人公風間隆吉の一生涯は、轍頭轍尾公益の生涯で、其間に一つの私心が交つて居らず、新社會を建設するに足るべき人物の性格運動の方法等が、最も明瞭に具象されて居るのである。又、吉田政近なる科學者を點出しては、新社會に於ける學者の態度如何を暗示し、更に風間と吉野と云ふ不幸な女性との關係を作つては、利害の外に超絕する自由戀愛の妙趣を敎へてある。篇中で最も哀れなるは、資本家の林、但し生涯を浮華なる逸樂に托して、他に一つの修養もなく、見地もなき資本家の運命は大抵こんなものである。又最も氣の毒なるはその資本家の下に働いて有丈の腦漿を絞り、貴き天賦の才能と精力とをつまらぬ埃溜へでも注いで居たやうな寺尾支配人。今日の日本にも往々此種の人物を見る。其他虚榮心を去つた他に何もなき寺尾の妻、無學無識なる勞働者荒熊文六の徒、長い間の習慣は養はれて、新しい空氣をすはぬ町内の各紳士など、一々紙上に躍動して眞に痛切を極む。試みに此書を繙いて通讀一番し、これを現代の日本にあてはめて見たらば、如何に發明する所が多い事であらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯便り

▲由分社は今回麴町中六番町十番地へ移轉しましたから、御承知下さい。

▲讀者諸賢の多くは今回の平民新聞の筆禍を御存じでせう。それが爲め同誌の發行署名人たる堺さんは、到頭暗き囹圄の中に呻吟する身となられました。昔しから主義の人、正廉の人が文盲社會の迫害を受け、何時も同じ運命に陷られる事は、歷史上に於ても決して珍らしい出來事ではないのです。一代の風潮に抗して、新しい叫びを上げやうと思へば、必ずそこに迫害がある、誤解がある。弱き者は恐れ、強きものは敵視する。是が人間界の紋切形である。若し此不明弱點が人間にないならば、人生は直に神の國です。夫かあらぬか、堺さんは今度の災難に對しても頗る樂天的で、愈入牢と云ふ前々日、生の許へ來た葉書にも『いよ〳〵……日から花見に行きます。歸つたら何か御土產話があるでせう。』の文句がありました。生は諸君と共に、此留守中を靜かに守り、さうして前後六十日間の沈默が本誌の上に、如何に沈痛なる文字を產むべきか、大にこれを樂みとして待つて居る必要あり。

▲米國シアトルにある本誌の愛讀者F生よりの書信に曰く『……一種のソシャリステキクを加味し、雜誌全體に我黨的口吻を帶びて、社會的感情に滿ち居り候云々』生はかゝる海外の地に、この好意ある愛讀者を見出したるを光榮とす。

▲越後の一愛讀生君に告ぐ。どうも極めて六ケ敷い御尋ねです。一體詩なぞ云ふものは學ぶべきものでなくして、人心自然の發露の聲でありますから、その教科書に就くと云ふのは無意味な事でせう。尤も單に言語を覺え句調を悟ると云ふ程の希望なれば、當今の新體詩人の作を御讀みになつて宜しからう。藤村など云ふ人もあります。

▲高橋豐三郎氏へ。滿幅の御好意感謝に堪へず。兄の筆に依て、略ぼ平和なる兄が家庭を想像します。願くば『家庭通信』の材料を續々頂戴致したし。

▲島根縣の舟木一義に申す。今后の本誌は飽く迄も此主義を抱持し、一方に舊家庭に向つて常に戰を挑むの傍、他方に於ては新家庭の指南車、慰藉者、益々責務の大なるを自覺する斗りです。戰爭美談の作に至つては前號に辨明致した通り、不要。

▲宮田松子君へ。手紙で悉しく御知らせします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

村井弦齋著（家庭第一實用書の完成）

増補註釋 食道樂

正價金八十錢
郵税市内五錢
▲地方十錢
▲臺灣清韓國三十錢

（冬の卷）附錄病人料理百五十種大好評十一版出來

▲各病院に此書無かるべからず▲各醫士の家に此書無かるべからず▲各病人の枕邊に此書無かるべからず▲無病の人も此書を讀んで衛生料理を學ばざるべからず▲春の卷卅一版▲夏の卷秋の卷増版●冬の卷には春の卷以下四篇の料理法八百四十餘種總索引あり

東京京橋三十間堀　報知社出版部（電話新橋二〇三六）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭之友

定價五錢 郵税五厘 一年分十二冊郵税共前金六十錢 見本郵券六錢

第二卷第一號要目

男女結婚の資格 (其一)ガントレット夫人 (其二)村井知至 (其三)寺田勇吉 (其四)佐治實然

草花の話 醫學士 原熙

出産の支度と産後の注意 ドクトル 森永友碩

育兒問答 ヴァテリヤ看護法、小兒の食物等 井上友子

家政問題 家計豫算表五種

家庭料理 宇山鎌子

小兒西洋服仕立方 コーツ夫人

多摩河畔より(木下藤次郎)◉家具保存の注意◉社會百方面◉戰爭雜感◉編輯記事等

創刊滿一年の**記念**として**第一卷合本**を發行す本誌の眞價は世自ら定評あり初號以下毎號既に五版六版を出して而かも尚ほ足らず依つて今回全部を改刷して高尚優美なるクロス製金字入の合本を製す總目録附四百餘頁**趣味**と**實益**との**無盡藏**也

▲定價金七拾錢(部税共)

大下藤次郎著

水彩畫階梯

クロス製最優美 水彩畫八枚挿入 五拾錢郵税四錢

著者曩に再び海外に遊びて幾多研究發明する所あり乃ち斷然舊著『水彩畫の栞』を絶版して新に此書を著せり説く所親切にして明瞭何人も容易く了解し自修し得ること諄々良師の指導を受くるにならず

版元 東京神田區南甲賀町八番地 内外出版協會

此清心丹は全國到る所にあり

ニッケル罐入にてポケット用に適す

本鋪 東京市日本橋區元大坂町八番地 高木與兵衛製

懷中要藥 清心丹 ニッケル罐入 定價拾五錢

旅行又は平常携帶に便利也

輕便 瓦斯の煮燒 德用

瓦斯は燈火用の外料理其他一般の煮燒用として使用は輕便マッチ一本あれば晝夜何時にても即時に用を便じ火力加減自在にして火災の危險なく且大に手を省き費用は薪炭よりも低廉なり

○三升の米は瓦斯代僅に一錢七厘時間十六分にて炊くを得べし

○瓦斯竈は本社の發明品にて專賣特許を得たるものにして瓦斯消費量少なく德用便利也

○工事費は前金拂は一割引とし又月賦拂にて約定す

○臺所竈、七輪、湯沸、風呂並煖爐等に專用の瓦斯代は特に定價の二割引とす

尙各種式新器具は當社構内陳列所又は銀座陳列所さへ陳列縦覽に供居候御立寄御一覽被下度候

東京神田錦町 東京瓦斯株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

電話本局八八八番
一三八五番

院長　醫學士　高田畊安

診察　毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

南湖院

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱
（停車塲所在）

副院長　醫學得業士　林止

診察　院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

高田病院施診所

東京麴町區三番町三十番地
（市ヶ谷停車塲附近）

主任　醫學士　松田三彌

診察　毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法チ示シ處方箋チ與フ○往診應需

外科皮膚病

梅毒痔痳　外科的婦人科尿道器械的療法

診察　午前九時より十二時まで

東京　新橋際出雲橋　加藤病院

院長　獨國醫學士　加藤時次郎

分院　橫濱神奈川臺○火木土午後三時至六時
小田原海岸　毎月曜午前中

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り
（電話　新橋）八一六番
二八〇八番

飯倉四ッ辻　飯倉支店　電話新橋一五七四番

赤坂表一丁目　赤坂支店　電話新橋二〇六八番

四谷大通り　四谷支店　電話番町五一〇番

牛込神樂坂　神樂坂支店　電話番町六三〇番

本郷一丁目角　本郷支店　電話下谷七二番

神田須田町　須田町支店　電話本局二〇七三番

兩國米澤町　米澤町支店　電話浪花二五九〇番

淺草吾妻橋通　吾妻橋支店　電話下谷七三番

南品川一丁目　品川支店　電話新橋一一三九番

橫濱吉田町　橫濱支店　電話橫濱[illegible]

日本橋坂本町　代理店　田中銀行　電話[illegible]二西〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●本社取次書籍目錄

本社に於て取次販賣を爲す書籍は、本誌の讀者諸君に限り、特に**定價の一二割引**にて御求に應ずる事と致します。但し郵券代用にて御送金は御斷致す。

▲家庭の新風味（堺枯川著）　全六冊合本、定價壹圓、郵稅八錢。

▲第一册、家庭の組織（結婚論、夫婦論、家族論。附錄、春風村舍の記）▲第二册、家庭の事務（秘書官として、大藏大臣として、內務大臣として。附錄、由分子禁烟の歷史）▲第三册、家庭の文學（新聞雜誌、書籍、日記、手紙、和歌、俳諧）▲第四册、家庭の親愛（夫婦の間、親子の間、家族の間。附錄、毛皮裏の外套、愛犬黑）▲第五册、家庭の和樂（食卓、來客、宴會、散步及出遊、遊戲、小供及老人、家畜及庭園。附錄、當世紳士、藤室牧師の家庭）▲第六册、家庭の教育（妻の教育、家族の教育、子の教育。附錄、極樂寺谷の晝飯、顏を美しくする法、補遺）

▲家庭夜話（堺枯川編輯）　全三冊合本、定價壹圓、郵稅拾錢。各册參拾五錢、郵稅四錢。

▲第一册、子孫繁昌の話（堺枯川譯述、原作は佛國最近の小說大家ゾラの理想を發揮したるフルートフルチス）▲第二册、質素節儉の話（加藤眠柳譯述　原作は有名なる英國の文人ゴールドスミスの第一の傑作たるヴイカ、オブ、エーキフイルド）▲第三册、仁慈博愛の話（志津野又郞譯述、原作は米國スートト夫人が無限の同情を注ぎたる奴隸談、アンクル、トムス、ケビン）

▲我家の犬猫（動物虐待防止會叢書第一篇）　定價八錢、郵稅貳錢。（此書に限り郵券九錢にて御注文に應ず）

▲火の杜（木下尙江著）　定價　錢郵稅　錢

家庭雜誌 合本 第壹卷

一册價金五十錢　郵稅金八錢

▲本誌讀者に限り當分の內壹割引にて差上ます

卷頭には便利なる目錄を添へ、製本は美麗高尙、クロースにて金文字入也。これを以て細君の文庫を飾るに宜しく、家庭間の贈答品としては更に宜し。新年の際若干を製本して、之を江湖に試みしに、思ひの外の高評を得て忽ちの內に賣切となれり。今度幸に數百冊出來したれば至急御申込ありたし。

東京麴町區中六番町十番地
發行所　由分社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゾラ原著
堺枯川抄譯

小説 勞働問題

社會主義及び勞働問題に關する理論の書は世既に其類に乏しからず、生命なき空想のユトピアも亦既に之を見たり、若し夫れ此主義を血にし、此問題を肉とせる、熱情の小説を得んと欲せば、必ずや之を本書に求めざる可らず。

實價金參拾五錢
郵税金六錢

東京日本橋 春陽堂發行

菊池幽芳著

乳姉妹

▲▲後編新刊▼▼

乳姉妹は近年稀に見るの傑作にして最も清新なる家庭小説なり、その前編一たび世に出るや文壇は殆んど空前の好評を以て之を迎へたり、乞ふ後編を繙きてこの佳作が局面一轉して變化縱横し而して繪の如く詩の如き無限の興趣溢るゝが如くなるを見よ、一たび手にしたるものは卷を措く事能はざらん

▲▲前編三版出來▼▼

前編口繪……活人書　中編口繪……鏑木清方畫
前編中編全二册菊判總クロース洋裝美本
實價前編中編、各六十錢、郵税各八錢

東京 春陽堂 日本橋